

ばれっと

2009
8月
No.120

■ すぽっとらいと

仙台 J O C S (日本キリスト教海外医療協力会)
使用済み切手を通じて海外協力

■ アラカルト

サポセン開館10周年記念特集④

- サポセン広場
- お知らせ
- イベント紹介
- 今月のサポ本

10周年記念サポセンアルバム

Album No.5



サポセン引っ越し (2006年8月)

真夏の引っ越し!!

サポセン移転怒涛の一ヶ月

3年前の8月。同じような暑さが続く中、サポセンスタッフは汗だくで引っ越し作業をしていました。

1ヶ月という短い期間の中で、物品を移動させ、利用者の方々をお迎えできるよう再構築を行いました。長年お世話になった本町サポセンとの別れを惜しみつつ、9月1日の移転オープンにこぎ着け、新サポセンとして再出発を果たしました。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

使用済み切手を通じて海外協力

仙台JOCS（社団法人日本キリスト教海外医療協力会）

使用済み切手を集めて換金し、海外（主にアジア・アフリカの国々）の医療支援に役立てる活動をしている仙台JOCS。毎月第2土曜日にサポセンで、使用済み切手の整理作業をする「きってきっぺの会」を開いています。幅広い世代の方が集まって、和やかに会話を楽しみつつ作業をしながら、実は海外協力をしているのです。

今回は代表の渡部芳彦さんらにお話を伺いました。

● 「JOCS」とは？

JOCS（社団法人日本キリスト教海外医療協力会）は、1960年に設立されました。使用済み切手を集めて換金し、海外の医療支援に役立っています。この使用済み切手運動は、今年45周年を迎えました。JOCSの支援の仕方には、お金やモノを送るのではなく、ワーカーと呼ばれる医師や看護師を派遣したり、奨学金で現地の医療従事者を育成するという特徴があります。その理由は、お金やモノを送っても、本当に必要なところに届かない可能性があるからです。

また、派遣ワーカーは、期限が来れば日本に帰らなければなりません。だから、医療を志す現地の人を育てる必要があるのです。ただし、災害の時などは、現地パートナー団体を通じて被災者協力を行うこともあるそうです。

仙台JOCSは、その取り組みを仙台の地でサポートしようと1999年3月に発足しました。JOCSには、他にも各地に仙台と同じような地区組織があります。他の地区組織同士や、東京事務局の担当者とは年1、2回交流し、情報交換をしています。仙台は比較的若いボランティアが多いので、参考になるところは吸収して、団体運営に役立っているそうです。

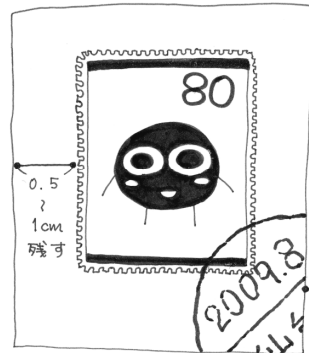
● 「きってきっぺの会」ってなに？

仙台JOCSは、使用済み切手の整理作業をする「きってきっぺの会」を開いています。「きってきっぺ」とは仙台の方言で、「一緒に切手を切ろう」という意味です。仙台弁の効果で親しみやすさはバッチリ。何をしている団体なのか分かりやすいご当地ネームの「きってきっぺ」は、どなたの発案だったのでしょうか？「栃木県の足利JOCSが「足利チョコキチョコキ」という名前です。仙台でもわかりやすい名前がいいのでは？ということになりこの名前になりました」と渡部さん。

集めた切手は、重さで切手商や個人の切手収集

家を買ってもらいます。「世界にはたくさんの切手収集家がいる、集める基準は人それぞれ。ちぎり絵の材料にするために集めている人や、消印の日付や発行局などで集めている人もいます。ですから、珍しい切手でなくても良いんですよ」と渡部さん。

では、個人で切手を集める時の注意点は？「封筒からはがさないことですね。そして切手のまわりを5～10mmぐらい残して切り取って下さい。消印は切れてしまってもかまいませんが、切手自体は切らないようにお願いします」



- ▼
- 切手の切り方
- 切手を切らないように、切手の周りを残して切る
- 消印は切れてもOK！

● みんなで「きってきっぺ」

「きってきっぺの会」の参加者は、毎回大体10名ほど。仙台JOCSのメンバーの他、さまざまな方が参加されます。「使用済み切手を集めている学校の先生と生徒さんが来てくれることもあります。また、サポセンにはいろいろな団体の方が出入りしているので、サポセンで活動すること自体がピーアールになっている面もあります」サポセンで「きってきっぺの会」を知り、飛び入り参加された方もいるそうです。月に1回、定期的に活動が続けていることが、「きってきっぺの会」を知ってもらえるいい機会になっているようです。地道な活動の大事さを感じます。

また、「きってきっぺ」の作業は、小さな子どもからお年寄りまで誰でもできます。ハサミを使えなくても、選り分け作業があります。実際にお邪魔してみると、世間話などをしながら和やか

団体紹介

仙台JOCS

(社団法人日本キリスト教海外医療協力会)

に、しかし手はしっかりと動いています。幅広い世代の方々が集まるので、世代の違う人と話しいい機会になりお互い刺激になるとのこと。珍しい切手などを見つけた時は盛り上がるそうです。

●モチベーションの高め方

「初めて参加される方には、JOCSの活動について説明をしながら作業します。国際フェスタやバザーなどのイベントに参加するための話し合いをしながら作業することもありますよ」

このようなコミュニケーションが、団体運営に欠かせない要素となっているようです。団体を立ち上げて10年になり、中心メンバーの入れ替わりがあっても安定した活動が続いている理由がここにあるようです。そして、団体のミッションや、作業の意味を伝えるということは、ボランティアマネジメントでは大切なことなのです。

仙台JOCSでは1年に1回、海外に派遣されたワーカーの報告会を開いています。自分たちが集めた切手が、換金された後に「どう使われているのか」を知ることができ、活動に対するモチベーションの高まりになるようです。長年の「きってきっぺ」参加者である千葉さんに、ワーカー報告会の感想をお聞きしました。「アジアやアフリカの国々を身近に感じられるし、親しみを持てるようになりました。また、普段聞くことのできない話も多く、興味深いですよ」

●忘れちゃいけない、大事なこと

整理された切手は換金され、全国で年間数百万円になるそうです。「お金で集めようとするとは大変ですが、使用済み切手なら、みなさん集めて送ってくださるのですね」と長年の「きってきっぺ」参加者である原さんが話してくださいました。

仙台JOCSの活動は、切手を集めることが目的ではありません。渡部さんは、「切手を何枚集めればワクチン何人分などというノルマ的なことではなく、自分の時間を使って行う作業を通じて、背景にある問題を考えたり、その解決に関わっているという感覚を得ることが大事だと思います」とおっしゃっていました。



取材を終えて…

医療機器を送っても、使いこなせる人がいなければ支援にはならない…。「本当の支援とは何か」を知る取材でした。また、支援してくれた方・参加してくれた方に「報告する」ということの大事さも改めて感じました。

(担当 菅野 祥子)

使用済み切手を収集し、換金して、アジアやアフリカなどの医療支援に役立てる活動をしている団体です。毎月開催している「きってきっぺの会」では、いろいろな世代の方が集まり、和やかに切手の整理作業をしています。

そのほか、派遣ワーカーの報告会、国際フェスタ、バザーへの参加などの活動をしています。



■ 設立 1999年3月

■ 連絡先

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6

「エマオ」内 仙台JOCS

TEL 022-222-0990

FAX 022-268-4042 [LC NO.18]

H P <http://www.jocs.or.jp/>

(社団法人日本キリスト教海外医療協力会)

サポセンの ココが使える！

仙台JOCSの方に、サポセンを利用しているのオススメポイントを伺いました。①立地が良い。わかりやすい場所にあるので、初めての人にも説明しやすい。②ロッカーに荷物を保管できる。整理待ちの切手や、作業で使うハサミなどを入れている。③レターケースでの郵便・FAXの取次ぎ。市民の方がお持ちになった切手を、レターケースを通じて受け取ることができる。

● 今後サポセンに望むことは？

10年間の活動で、学校が切手集めに協力してくれるなど、団体の取り組みが広まっている一方で「切手をどこに持っていけばいいかわからなかった」という一般市民の声があります。こうした活動をピーアールする支援や、ボランティアしたい人と団体をつなぐマッチングの場があるといいな、と思います。

サポセン 10周年記念特集④

◆サポセンは、おかげさまで2009年6月に10周年を迎えました。
このコーナーでは、これまでのサポセンの軌跡をダイジェストで、振り返ります。詳しい内容については、10周年記念誌に掲載する予定です。

5月号よりスタートした、サポセン10周年記念特集。今回は、2006年の移転から現在に到るまで、サポセンに関わってきた関係者と利用者の方に、お話を伺いました。

仙台市の担当者

■2006年4月～2007年3月まで仙台市民
活動支援室長を務めた 相沢 良雄さん
(現 青葉区保険年金課主幹)

—移転という大きな節目に立ち会われましたが、
移転時にご苦労されたことは何ですか？

私たちの場合、移転準備の途中で室長と担当者が同時に人事異動になったということが、一番大きな苦労であったと思います。このため、着任後急いで移転の全体像を把握し、どこまで進捗し、どのような問題が残っているのかを突き詰めながら、当初予想されていなかったことへの対応をはじめ、より細部の仕切りに全力を傾けたことが思い起こされます。

今回の移転の場合、単に立地の移転にとどまらず、築43年で地上3階（一部4階）の施設から格段にお洒落な地上7階・地下1階の施設に変わったことや、新設の「市民活動シアター」をどう使い回すかなどがその難度を押し上げたと思います。しかし、今となっては難なく移転が済んでしまったような錯覚を覚えますが、これは、サポセンスタッフの持ち前の強い使命感とほとぼしる情熱があって成せた技だと考えています。

—新サポセンの新たな取り組みについて、行政担当者としてどのように取り組まれましたか？

移転後のサポセンには、地の利、施設の利を生かした運営が求められただけではありませんでした。サポセン開館や市民公益活動の基本方針の策定から5年が経過していましたし、国内の至る所で野心的な新たな挑戦の事例が見受けられるようになり、市民協働の先駆役、牽引役を果たしてきた仙台市としても、うかうかしてはいられない状況でした。

そのような中、指定管理者からの事業提案として新たに重点強化された一つが「出前サポセン（*）」でした。これまでの市中心部での一極集中型の事業推進にとどまらず、より住民に身近なところで市民活動支援事業を行うことにしたわけ

です。

これをどのように展開して行くかかなりの苦労がありましたが、地域コミュニティの重要性が改めて問われていたことあり、これまでのサポセン活動で得た様々な成果を、多様な地域課題の解決ひいては市全体の市民活動のレベルアップに大いに活かせると考えられたことから、市民センターサイドと協議を整え、具体実施の糸口を開き今日に至っています。

この事業の到達点はかなり遠く高い所にあると思いますが、その道先案内や運営手法として役立つものを、第4期市民公益活動促進委員会が用意してくれたと考えています。現在の取り組みの試行錯誤が近い将来の好結果につながることを大いに期待しているところです。

—これからのサポセンに期待することは何ですか？

仙台のまちは、旧来の歴史を深く骨身に刻んでいる市民と転入市民さらには職場や学びの場の都合で比較的短年数滞在する市民や学生などが混在しているまちです。その意味では旧来からの伝統的な市民協働を大事にしながら、新しい風を引き寄せ、それを快く馴染ませていくことができるような立ち位置を常に保ち、旧と新の調和の中に“仙台らしさ”が息づくような運営が大事だと思います。市民センターや区役所などでソフト面のまちづくりに長く身を置いた後に市民活動促進の仕事に携わった者として、そのように強く思います。



* 出前サポセン

サポセンの主なサービスをパッケージにし、地域の活動者の活動拠点となっている市民センターなどへ出向くもの。サポセンの紹介だけではなく、地域の活動団体の紹介や、NPOいろいろ塾などを開催している。

サポセンスタッフ

■2005年4月～2007年3月まで
センター長を務めた 遠藤 孝志さん
(現(特活)多賀城市民スポーツクラブ 事務局次長)

—移転時に、苦労したこと、工夫したことは何ですか？

サポセンの移転が決定したのが2005年8月でした。翌9月には移転プロジェクトを立ち上げ、2006年9月1日の移転オープンに向けての準備を始めました。移転にあたっては、利用者からの要望や、それまでの管理・運営で蓄積したデータを活かし、利用者ニーズを捉えながら、新サポセンの整備にむけて、市への提案を行い、協議しながら進めていきました。例えばロッカーは大きいサイズの需要が高く毎年抽選になっていたのですが、移転を機に、大サイズの新設や中サイズの増設が実現しました。また、それまで1階と2階に別れていた事務局や情報は1階へ集中させるなど、利用者の利便性を考慮したレイアウトづくりにも努めました。

移転にむけた作業は、日常業務と並行して進めました。1ヶ月の休館だけで無事移転を成し遂げられたのは、仙台市の職員の方々とスタッフが丸となって取り組んだ結果だと思っています。



新仙台市民活動サポートセンター開館式

—新サポセンの新たな取り組みである「市民活動シアター」についてお話をください。

移転とともに新たに「市民活動シアター」が加わり、その管理・運営を担うことは、大きなチャレンジでした。私たちには、市民活動の中間支援組織として市民活動支援におけるノウハウはありましたが、シアターの管理・運営、技術面ではノウハウの無い状態でスタートすることになったのです。そのため、スタッフはオープニングイベントやその後の外部研修を通じて、技術習得に努めました。特に、2006年9月から10月に実施したオープニングイベントでは、劇団や市民活動団体など8団体の協力を得て多様なプログラムを実施することで、新しくなった「市民活動シアター」のお披露目をすることができました。またスタッフにとっては、プログラムの実施を通じて、主催団体や演劇工房10-BOXなどの協力により、実践的に学ぶ機会ともなったのです。

サポセン利用者

■田中 聡子さん
(特活)まなびのたねネットワーク 事務局長

—どのように、サポセンをご利用いただいていますか？

2007年の団体設立前から、サポセンを利用していましたが、立ち上げ時期には助成金情報の収集や資料作成のためのパソコン利用など、フルにサポセンを活用しています。団体の設立総会はサポセンで開催しました。

私たちの団体は、キャリア教育や学校支援の活動も行っているために、日中はメンバーそれぞれが市内の各小学校に赴いて活動しています。そういった状況ではメンバーが集まって話し合いや情報共有する場が必要になります。街中にあるサポセンは、それぞれの現場からも集まりやすく、また情報収集という点においても欠かせない場所です。2009年2月から事務用ブースに入居していますが、本当に1から10までサポセンを利用しています。

—これからのサポセンに望むことは何ですか？

サポセンを利用していると、スタッフの方から声をかけられることが多いです。先日は、手作りのメモ帳をいただきました。スタッフとの何気ない会話の中から情報を得ることも多いです。

サポセンには引き続き、活動に必要なノウハウや資源などの情報のデータベースであることと、人や団体のコーディネートの役目を期待しています。特に、地域の人たちと一緒に活動している市民活動団体や企業などで、仙台(地元)の情報があると嬉しいです。今後の活動の参考にしていきたいと思っています。

私自身は、サポセンの視点にとっても触発されることが多いです。7月4日に開催された10周年記念シンポジウムもそうでした。講座や主催事業を通じて、自分たちに足りないこと、これからしなければいけないことを教えてもらうことがあります。サポセンには、私たちより一歩先において、団体をリードする存在であって欲しいと思っています。

サポセンは、2009年6月30日に、開館からちょうど10年を迎えました。

今までの取り組みを継承しつつ、時代とともに柔軟に変化し、進化するサポセンであり続けたいと思っています。

次号では、7月4日に開催した10周年記念シンポジウムの様子をご報告します。どうぞお楽しみに。

(担当 小松 州子)

サポセン 日記

NPOいろは塾の舞台裏

平均受講率99.3%の超人気講座、NPOいろは塾(以下、いろは塾)。NPOやボランティアに興味や関心はあるけど、よく分からないという方に向けて開催されています。そんないろは塾が、当日どのように準備されているのか。舞台裏をちょっと覗いてみましょう。

いろは塾の開催にむけて、チラシ作成、配布資料の準備、受講者名簿の作成などの作業は担当スタッフの仕事。

いろは塾の塾長は、サポセンのスタッフが交代で担当します。今回の塾長は小松副センター長。事前申込書に書かれた参加理由に目を通し、受講者がどんなことを知りたいのか把握します。「NPOを立ち上げたいという参加動機がいくつかあったので、今回はNPOの様々な始まり方を紹介しよう」と講座の進め方を決めていきます。

◆ 6月16日(火) NPOいろは塾当日

13:30 本番直前(1時間前)

担当スタッフは、会場の準備。イスや機のセッティング、配布資料の確認、受付準備などなど…。おっと、つり銭を忘れないように！いろは塾の受講料はワンコイン500円です。

一方、小松塾長はというと、参加者に満足してもらえるように、講座内容をぎりぎりまで検討。ひとりサポセン内の一室に籠って最終確認中です。

14:30 いよいよ本番

小松塾長は、「NPOって何？」という問いに、具体事例を交えて分かりやすくお伝えしています。受講者は熱心にメモを取りながら聞いています。1人の素朴な質問から大事なポイントが受講者全員に伝えられる場面もあります。

15:30 サポセンツアー

40分のレクチャーの後、初めてご来館頂いた方も多いのでサポセンの機能についてご紹介します。具体的な利用の仕方を聞きながら各階を回ることで、使い方がイメージできた様子。

16:00 いろは塾、無事終了

受講者の「？」は解決したかな。

担当スタッフは、みなさんにご記入頂いたアンケートを集計。「法人格を取得していないNPOもあるということを知った」「立ち上げまでのプロセスをもっと事例を通して学びたいです」みなさんから頂いた声に、手ごたえを感じつつ、担当スタッフ全員で改善点を出し合いました。

さて、さっそくまた次回のいろは塾の準備をはじめなきゃ！
(担当 大石 俊)

お知らせ ●○●

平成21年度人材育成事業 年間スケジュールのご紹介！

サポセンでは、NPOや市民活動団体で活動している人や、これから活動を始めてみようという方に、3段階の講座を開催しています。

【ホップ】市民活動への入門講座「NPOいろは塾」

【ステップ】これから団体を立ち上げようとしている方へ「NPO立ち上げいろは塾」

【ジャンプ】団体で活動しているの悩みを解決する「ステップアップ講座」

8月以降の講座スケジュールは、以下の表をご覧ください。団体運営などに、ご活用ください！

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ステップアップ講座		②29日(火) 19:00~21:00		③24日(火) 19:00~21:00			
NPO立ち上げいろは塾	1日(土) 13:30~15:00					23日(土) 13:30~15:00	
NPOいろは塾 [90分間]	25日(火) 19:00~	26日(土) 14:30~	27日(火) 19:00~	17日(火) 14:30~	15日(火) 19:00~		20日(土) 14:30~

8月の イベント紹介

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

●貸室での催し物

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
8月2日(日) 14:30~15:45	「盗撮の被害をなくすために」	研修室2	300円 資料代を含む (事前申込不要)	NPO法人日本情報安全管理協会 空間管理委員会 東北(仙台)校 Tel&Fax:022-399-7801 (星)
8月5日(水) 19日(水) 14:00~18:00	女性の為のカウンセリングルームです。 心の声に耳を傾けてみませんか？まず はご連絡を…。(面接50分間)	研修室1	初回のみ無料 2回目~1,000円 (事前申込必要)	この会 携帯:090-9635-6708 (粟野千賀)
8月19日(水) 11:00~13:00	ベビーケア・マッサージ、クラフト作り	研修室3	教材費1,500円 (事前申込必要)	Heartの会 携帯:080-1823-3146 Fax:022-222-8926 (曾根千賀子)
8月22日(土) 14:00~17:00	「傷つきの回復プログラム」-それぞれの 生きづらさを解放する糸口を一緒に 見つけませんか？	研修室3	1,000円 (事前申込必要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 携帯:080-1838-7464 (星野はるか)
8月24日(月) 18:30~21:30	子供がコミュニケーションを通じて夢や 目標を発見！その実現に向かって自立 できるよう支援します。	研修室1	初回のみ無料 2回目~2,000円 (事前申込必要)	NPO法人日本スクールコーチ協会 東北支部 携帯:090-7068-1890 Fax:019-661-5337 (二階堂 仁)

イベント紹介に、団体のイベントを掲載してみませんか？

イベント紹介では、毎月サポートセンターを会場として行われるイベントを紹介しています。イベント紹介に掲載するには、窓口で配布している掲載用紙にご記入の上、窓口かFAXにてお申込み下さい。

詳しくはスタッフまでお問い合わせください！



◆サボセンの図書コーナーの本を紹介します。



『変えていく勇気 -
「性同一性障害」の私から』

著者:川上あや
発行:岩波書店
定価:777円(税込)

■この本は
「B 人権・ジェンダー」に
あります。

性同一性障害を抱え、社会制度のすきまで息をひそめる生活から一転、世田谷区議会議員となった著者からの「声を上げなければ何も変わらない」という熱いメッセージ。
前半は、差別を怖れてじっと我慢をしていた時代から、制度の壁にぶち当たり政治家として声を上げるまでの変遷がつつらられており、少数者が生きにくい社会を浮き彫りにしています。後半は、外国人や障がい者、ひとり親家庭などの小さな声の紹介と、当事者が声を上げることで社会は変わってゆくことを、自身の経験をもとに説いています。
そして最後の一章で、「フツウとは何か」という命題を讀者に投げかけ、誰もがのびやかに生きられる社会の実現を訴えています。
当事者団体や、少数者の支援をする人たちにとって、声を上げる勇気を奮い立たせてくれる一冊となっています。

(担当 太田 貴)

オススメ
今月のサポ本
『変えていく勇気
「性同一性障害」の私から』

主催イベントのお知らせ ●○●

<申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
7月28日(火) 19:00~21:00	ONPOステップアップ講座 その1 組織の課題と自分の課題について、一人ひとりが考える講座です。あなたの力が社会を変えます!	セミナー ホール (6F)	1,000円 (事前申込必要)
8月1日(土) 13:30~15:00	ONPO立ち上げいろは塾 団体立ち上げの基礎などについて、分かりやすく学びます。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)
8月25日(火) 19:00~20:30	ONPOいろは塾 NPOの基礎について、90分で分かりやすく学びます。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)
8月29日(土) 13:00~18:00 30日(日) 13:00~17:00	●サポセン・シアターを3倍面白くする企画参加企画 「中南米音楽でバリアフリー」 =作ってならして、みんなで楽しく、歌っておどる= 中南米音楽の楽器・サンポーニャ作りや、ワークショップ、音楽ライブなどを開催します。 主催:(特活)博英舎・こころや 問合せ先 TEL 022-728-8343	市民活動 シアター (B1F)	土日通し券1,000円 [ワークショップ 参加の場合は 200円加算] (事前申込必要)
9月19日(土) 10:00~16:00	○出前サポセン@せんだい地球フェスタ2009 国際センターで行われる、せんだい地球フェスタに、出前サポセンとしてブースを出展します。	仙台国際 センター	無料 (事前申込不要)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

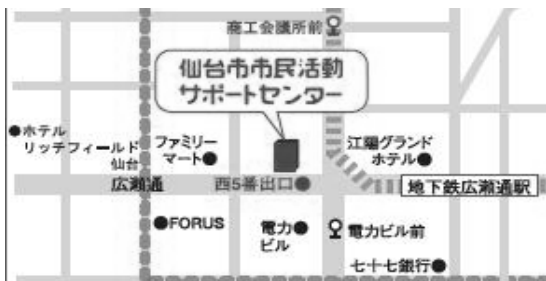
<申込み・問合せ> TEL 022-217-3983
仙台市シニア活動支援センター (サポセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
8月8日(土) 10:00~18:00	◆ 専門相談 歌や踊り、芝居などの趣味を活かした活動を社会参加につなげてみませんか?(先着5名、相談時間1時間程度)	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)
9月26日(土) 10:00~18:00	◆ セカンドライフ相談 「経済面」「健康」「生きがい」などの視点で、セカンドライフについてアドバイスします。 相談員:シニア元気笑学校 校長 渡辺源治さん	研修室2 (3F)	500円 (事前申込必要)

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でお来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄りのバス停]

電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

■ 開館時間

○平日 午前9時~午後10時
○日曜・祝日 午前9時~午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

7/29 8/26

■ 編集後記

◆7月からサポセン1階にある七夕飾り。竹はサポセンで用意しましたが、飾りは全て利用者の方が用意してくれました。短冊もありますので、願い事を書いてください。(内川)
◆まだ、私が中学生だった頃、使用済み切手をせつせと送っていた団体が、今思うと今回「すぽっとらいと」に登場したJOCSさんでした。捨てられそうな切手を見たら、ちょっと待った!(小松)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2009年7月24日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:内川奈津子 小松州子 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2007年4月1日~2010年3月31日]